

待ちに待った給食
ごはん 焼魚
からしあえ
おでん

ほぼ日刊 夢の華 C^カa^ラr^ツa^ト+

第771号
神町中学校 夢色通信社
令和2年12月4日

授業研究会（2年3組・英語）

12月2日（水）、神町学校を会場に「山形県英語研究大会北村山大会」が行われ、北村山地区内の小・中・高校の先生方が2年3組の授業を参観し研修を深めた。

“Let’s begin the class. Stand up please” と、門脇先生の一声で授業が始まる。
“Good afternoon Mr.Kadowaki.” “Good afternoon everyone. How are you?” とお決まりのフレーズで授業が進む。驚くことに、門脇先生の指示に日本語はない。生徒もそれを当然のように聞き入れていく。最初の活動は、“small talk” である。“What do you like to do in your free time?” という質問から始まる会話を2人で1分間続けるというものだ。教室のあちらこちらから、英会話が聞こえてくる。

ちなみに、斉藤暖空くんと高橋利緒さんの会話を紹介してみよう。

利緒：暖空くんは、自由な時間に何をするのが好きですか？

暖空：英語を勉強するのが好きです。

利緒：英語が好きなのですか？

暖空：いいえ、嫌い。でも、もし英語を勉強していなかったら、テストでは良い点数は取れなかったと思います。利緒さんは自由な時間では何をしていますか？

利緒：私はゲームをするのが好きです。

暖空：どんなゲームが好きですか？

利緒：リズムゲームです。

暖空：ぼくは、あまりリズムゲームが好きではありません。うまく操作できないのです。



この会話を聞いていた葉山中学校の校長先生は、「この会話のやり取りを聞いただけで、授業のレベルの高さが分かる。毎日の授業の積み重ねが素晴らしいのだろう。」と驚いていた。

その後、『我々の未来に本当に必要なロボットについて、世界が「おっ！？」となるスピーチにするには？』という課題で、自分が考えてきたスピーチ文を他の人にも見てもらいながら練り直していくという活動が行われた。元木煌瑛くんは「今までのスピーチには具体例がありませんでした。僕は、趣味に付き合ってくれるロボットのスピーチ文を書いているのですが、バレーボールでチャンスボールをしっかりと返す練習に付き合ってくれるロボットという具体例を加えることができました。」と、伊豆田夕唯さんは「人がたくさんいて緊張しましたが、授業で新しく習った文法（to + 不定詞）を文の中にたくさん使ってスピーチ文をつくることができました。」と授業の成果を振り返っていた。授業を参観していた東根二中の校長先生は、「レベルの高い授業に、生徒が頑張っていて応えている。すごい生徒たちだ。」と話していた。